

署員が訓練成果披露

芦別署が冬季
術科訓練納会
迫力の逮捕術試合も

【芦別】芦別警察署（佐々木好明署長）は7日、「冬季特別術科訓練納会」を同署で実施した。今回は、例年行っている逮捕術試合だけでなく不審者対応訓練も行い、本番さながらの訓練を見学者に披露した。



1月27日からの冬季特別訓練を締めくくると公開訓練。警察官友の会役員らをはじめとし、た来賓に加え、今年は警察の仕事の魅力発信を目的に、芦別高の生徒も見学した。

芦別

訓練は不審者対応訓練から開始。閉店後のスーパーに侵入した不審者や、交番内で暴れる不審者への対応を想定した訓練を行った。写真。暴言を吐きながら、武器を振り回して暴れる不審者役の署員を盾やさすまたなど

を使い、取り押さえる緊迫感あふれる様子が披露された。その後、徒手や警棒と短刀を用いた逮捕術試合も披露され、技が決まるたびに拍手が起きていた。

見学した警察官友の会副会長の浅井富雄さんは「緊迫した本番さながらの逮捕に感動しました。このような訓練を重ねて芦別市民を守ってもらっていると痛感し、感謝の気持ちを新たにしました」と講評した。また芦別高1年の佐藤鈴音さんは「空手をやっているのを見覚えのある技や、試合に生かせそうな技が見られて、とても参考になった。警察は将来の一つの道として目指したいと思う」と話していた。

【村澤由香里】